

講話の演題「私の履歴書」(寺田達明)

広島キワニスクラブ会員、元中国電力(株)常務取締役
元中電技術コンサルタント(株)取締役社長・相談役

○私の「座右の銘」(常に自分の心に留め置く大事な言葉)

・「精神一到何事かならざらん」

精神を集中して努力すれば、どんなことでも成し遂げられないことはない。

・「案ずるより産むがやすし」

物事はあれこれ心配するより、実行して見れば案外たやすいものだ。

具体的には、まず行動して見ること、その結果がたとえ失敗だったとしても、それは必ず今後生きるし、何があっても自分の命まで取られるようなことはないという覚悟で仕事に取り組む。

○岡山県井原市出身の彫刻家、平櫛田中(ひらぐし でんちゅう)先生の名言
「いまやらねばいつできる、わしがやらねばたれがやる」

この名言の意味は、人間は思ったら直ちに実行せねばいけない。

考えただけでは、やったことにもならず。消えてしまうものです。

「いまやらねばいつできる」ですよ。そして「わしがやらねば、たれがやる」と自分で覚悟すること。これが人間の努力を確実にするものですよ。

○「健康がすべてではないが、健康がなければすべてはない」(ヨーロッパ)

○明治大学の二人の名物監督の名言(北島イズムと島岡イズム)

・明治大学ラグビー部元監督、北島忠治氏(1901生まれ、95歳死去)

67年間監督を務め、明治大学ラグビーに求めたものが“前へ”でした。

臨終の言葉も「明治 前へ」であり、困難や難題に直面しても、ひるまずひたすら“前へ”と進むという「前へ」の精神は、現在も、明治大学の代名詞であり、哲学として受け継がれています。

・明治大学硬式野球部元監督、島岡吉郎氏(1911年生まれ、77歳死去)

37年間にわたり硬式野球部の指揮をとり、技術や体力を超える“心”を鍛え「人間力」を発揮させることを選手に求め続けました。

あらゆる場面での御大の口癖は「なんとかせい」でした。「なんとかせい」と言われたら、なんとかするにはどうすればよいのか、自分で考えなければならぬ。つまり、この「なんとかせい」という言葉が選手の考える能力を養っていたというのです。やらされるのではなく、考えてやることになる。

人生は何とかする気があれば、なんとかなるのである。 以上